〈九州地域指定生乳生産者団体〉九州生乳販売農業協同組合連合会

九州生乳販連会報

No. 59
August 2017

TOPICS

第18回通常総会を開催 …… 1
平成28年度事業報告 …… 2
生乳品質共励会表彰式 …… 9
酪農情勢報告 …… 10
平成29年度会員別生乳受託乳量 …… 11
平成29年度販売状況について …… 11
月別受託生乳検査成績 …… 11
加工原料乳生産者経営安定対策事業に関するお知らせ …… 12
九州北部豪雨(激甚災害指定)について …… 12
平成29年度生乳計画生産目標数量の配分について …… 13
酪農理解醸成・牛乳消費拡大対策事業　お知らせとご報告 …… 14
平成29年度酪農教育ファーム認証牧場・ファシリテーターを募集します！ …… 16

第18回通常総会を開催

去る7月24日、福岡市内のホテルで農林水産省（本省及び農政局）、九州7県庁畜産課及び全国連等多数の来賓の臨席のもと第18回通常総会を開催しました。

尾形文清代表理事会長の挨拶後、来賓を代表して農林水産省牛乳乳製品課の本田調整官、中央酪農会議の迫田専務理事の2名に挨拶をいただきました。

その後、議長に宮崎県経済農業協同組合連合会の壹岐副会長を選任し、議事に入りました。

第1号議案「平成28年度事業報告、貸借対照表、損益計算書、注記表、附属明細書及び剰余金処分案の承認について」上程され、西田正勝代表監事の監査報告の後、質疑に入り異議なく原案どおり可決承認されました。

尾形会長

本田調整官

迫田専務理事

壹岐議長

第2号議案「役員の補欠選任について」上程され、投票の結果、佐賀県農業協同組合の大島代表理事組合長・鹿児島県酪農業協同組合の橋口代表理事組合長が理事に選任されました。金原理事（佐賀）と内匠理事（鹿児島）は退任されました。

第3号議案「役員退職慰労金の支給について」上程され、原案どおり可決承認されました。

最後に、清末健一代表理事副会長が閉会の挨拶を述べ終了しました。

新役員

代表理事会長	尾形　文清
代表理事副会長	清末　健一
代表理事常務	山口　昌春
理事	大島　信之
理事	中村　隆馬
理事	隈部　洋
理事	壹岐　定憲
理事	橋口　弘
代表監事	西田　正勝
監事	山田　政晴
監事	船ヶ山祐二

退任役員

理事	金原　壽秀
理事	内匠　秋夫

理事
大島　信之

理事
橋口　弘

平成28年度 事業報告

Ⅰ 一般概況

昨年4月に安倍内閣は改正農協法を施行させましたが、ちょうど同じ頃に規制改革会議は指定生乳生産者団体の廃止を含む提言を取りまとめました。関係団体等の要請活動もあって「規制改革実施計画」では抜本的な改革については検討し、秋までに結論を得ることとなり指定団体廃止の文言は削除されました。その後、自民党と9月に設置された規制改革推進会議で制度改革案について調整が行われましたが、「農業競争力強化プログラム」に「加工原料乳生産者補給金の改革」が盛り込まれることとなり、加工原料乳生産者補給金暫定措置法を廃止し、恒久法である改正畜産経営の安定化に関する法律を成立させようとしています。制度の詳細は政省令により定めるということですが、需給調整の手法や当初の目的であった酪農家の所得向上となる制度にするための議論が今後重要になってきています。

ＴＰＰについては、一昨年10月に参加国12ヵ国により大筋合意がなされましたが、アメリカのトランプ大統領が永久離脱を表明したことにより、アメリカを除いた11ヵ国によるＴＰＰを模索することになりました。アメリカの二国間交渉による自由貿易協定（ＦＴＡ）やＥＵによる経済連携協定（ＥＰＡ）が成立した場合には、国内農業への影響が懸念されるので、今後の交渉動向には注視が必要となります。

28年度の乳価については、4月に発生した熊本地震、九州域内乳業工場の製造移管や夏場の生乳生産の低迷から域外送乳が減少したことにより、飲用向けが低調に推移しましたが、他用途の数量を交渉することにより28年度の支払乳価は前年度と比較して0.147円/kg上回った単価となりました。依然として飼料費等は高止まりしており酪農経営は厳しい状況が続いています。

生乳生産量については、酪農経営の廃業に歯止めがかからず、28年度中に80戸の酪農家が減少しました。また熊本地震の被災による酪農の休業や夏場の猛暑もあり、年間を通じて前年度を下回る生乳生産状況で推移し、28年度の生乳生産量は617,763トン（計画比96.9%、前年比96.8%）の実績となりました。飲用牛乳向け生乳の需要については、全国で前年比100.8%の実績となりましたが、九州では前述のとおり熊本地震、乳業工場の製造移管、域外送乳の減少により全国平均を下回る95.9%の実績となりました。今後も生乳販売では飲用化の推進と費用削減による乳価アップや生活者に対しては酪農理解醸成活動や牛乳消費拡大対策事業を継続的に実施していきます。

1. 生乳生産

平成28年度生乳計画生産は、「平成28年度生乳計画生産・需給安定化対策基本要領」（平成28年3月17日 一般社団法人中央酪農会議 第345回理事会決定）に基づき、640,143t（販売基準数量・選択的拡大生産数量を加算、前年比100.29%）の配分を受け、これを本会の「平成28年度生乳計画生産対策実施要領」に基づき、各会員へ第一次設定数量として配分しました。

期中、新規就農枠965ｔ（1戸）を申請のあった1会員に配分、また、9月および12月に会員枠調整を実施し、617,483ｔ（前年比96.74%）を生乳計画生産目標数量として各会員へ配分しました。

このような中、平成28年度は、交雑種（F1）の種付け率の増加と導入牛の高騰を背景として搾乳牛・後継牛の減少が著しく、また、4月14、16日に発生した平成28年熊本地震により熊本を中心とした地域で生乳生産基盤に甚大な被害を受け、さらに7月以降は猛暑が追い討ちをかけたことも合わさり、28年度合計では617,763ｔ（計画比96.9%、前年比96.8%）となりました。（表1）

表1．月別計画生産実績　（単位：計画ｔ、実績kg、%）

月	事業計画	実　績	計画比	前年比
4	56,400	54,697,014	97.0	96.0
5	57,200	56,179,775	98.2	97.2
6	53,300	52,050,901	97.7	96.8
7	52,300	50,638,073	96.8	95.8
8	49,800	48,751,050	97.9	96.9
9	49,100	48,278,376	98.3	97.2
上期計	318,100	310,595,189	97.6	96.6
10	51,600	49,452,732	95.8	96.7
11	50,700	48,788,118	96.2	97.3
12	53,800	51,683,272	96.1	97.0
1	54,500	52,852,895	97.0	98.0
2	50,500	48,873,335	96.8	94.6
3	58,400	55,516,962	95.1	97.8
下期計	319,500	307,167,314	96.1	96.9
年度計	637,600	617,762,503	96.9	96.8

2. 生乳販売

平成28年度の生乳販売は、4月14、16日に発生した平成28年熊本地震により熊本県内4乳業工場が操業停止に追い込まれる中、交通インフラの寸断や生乳輸送ローリーの不足もあって県外・域外での飲用化には限界があり、地震後早期復旧した弘乳舎および熊本県南部から比較的近距離にある南日本酪農協同㈱へ生乳を集中させた結果、4月の加工向けは前年を大きく上回り、域内飲用は前年を大きく下回る非常に厳しいスタートとなりました。その後は、被災した乳業工場の操業再開とともに学乳を含む域内飲用向けが徐々に回復し、7月から9月までは猛暑の影響で需要が伸びたこともあり域内飲用向けが前年を上回りましたが、生乳生産が減少したことにより域外飲用向けは大きく減少しました。一方、9月より大手乳業者で製造された900ml新パックが全国に先駆け九州で発売されましたが、平成29年3月まで新パックのライン増設工事が行われた影響で大手乳業者の処理量が大きく減少し、10月以降域内飲用が減少しました。

このような中、飲用向け合計では430,293 t（計画比96.0%、前年比95.9%）となりました。加工向けは4月のみ前年を上回ったものの5月以降は前年を下回って推移し、加工向け合計では64,958 t（計画比97.3%、前年比97.9%）となり、加工原料乳限度数量の90.3%となりました。また、はっ酵乳等向けについては84,041 t（計画比102.2%、前年比101.5%）と計画・前年を若干上回る実績となりました。生クリーム向けについては、熊本地震により生クリーム処理を持つ熊本の2工場が一時操業停止となったことや、域内・域外乳業者との生クリーム取引を見直したことにより、37,271 t（計画比95.4%、前年比94.8%）と計画･前年を下回りました。チーズ向けは1,200 t（計画比100.0%、前年比103.7%）と前年を上回りました（表2－1）。

販売先を地域別に見ますと、九州域内480,766t（前年比97.3%）、中国地区34,046t（前年比93.8%）、関西その他地区102,951t（前年比95.3%）の実績となりました（表2－2）。

表2－2．地域別販売実績　（単位：kg、%）

地域別	実績	前年比	構成比
九州	480,765,758	97.3	77.8
中国	34,045,921	93.8	5.5
四国	0	0	0
関西その他	102,950,824	95.3	16.7
計	617,762,503	96.8	100.0

3. 生乳販売価格・販売費用

4月に発生した熊本地震により、酪農をはじめ乳業も甚大な被害を受けました。熊本にある乳業4工場が操業を一時停止する事態となり、4月は飲用向けの減少と加工向けの増加となりました。

また、9月より九州先行で発売された大手乳業者の900ml新パックも思うような伸びが見られず苦戦しております。

販売価格は、熊本地震及び大手乳業者の新パックの不調で域内飲用が減少、また、夏場の生乳生産の減少により域外飲用が減少しましたが、はっ酵乳向けの抑制と加工向け・生クリーム向けの減量により前年+0.065円/kgとなり、成分加算金を加えて前年+0.141円/kgとなりました。

販売費用については、まず4～6月は熊本地震により熊本県内乳業工場被災の影響から送乳費増、また、9月以降も大手乳業者新パックの販売不振の為、域外向け出荷増もあり、前年+0.014円/kg、CS・冷却費については生乳生産の減少により出荷する生乳が減少したことから前年△0.020円/kg、費用全体としては前年△0.007円/kgとなりました。

生乳販売代金（基本乳代＋成分加算金）から販

表2－1．用途別販売実績　（単位：計画t、実績kg、%）

用途		計画	実績	計画比	前年比	構成比
飲用向け	域内飲用	280,660	269,350,337	96.0	95.5	43.6
	学給	38,590	39,455,165	102.2	100.0	6.4
	域外飲用	129,080	121,487,192	94.1	95.5	19.7
飲用向け計		448,330	430,292,694	96.0	95.9	69.7
はっ酵等向け		88,260	84,041,215	102.2	101.5	13.6
加工向け		66,740	64,957,942	97.3	97.9	10.5
生クリーム等向け		39,070	37,271,012	95.4	94.8	6.0
チーズ向け		1,200	1,199,640	100.0	103.7	0.2
計		637,600	617,762,503	96.9	96.8	100.0

表３．販売乳価及び費用の比較

年　度			28年度	27年度	差
乳　量			617,763 t	638,295 t	△20,532 t
	プール対象生乳代金	金額	65,408,744千円	67,541,313千円	△2,132,569千円
		単価	105.880円	105.815円	0.065円
	成　分加算金	金額	1,063,017千円	1,050,181千円	12,836千円
		単価	1.721円	1.645円	0.076円
生　乳　代　金　計		金額	66,471,761千円	68,591,494千円	△2,119,733千円
		単価	107.601円	107.460円	0.141円
販　売　費　用		金額	3,240,928千円	3,352,830千円	△111,902千円
		単価	5.246円	5.253円	△0.007円
支　払　乳　価		金額	63,230,833千円	65,238,664千円	△2,007,831千円
		単価	102.354円	102.207円	0.147円

売費用を差し引いた支払単価は前年 +0.147円/kgとなり昨年度を上回りました。(表３)

４．乳代精算

乳代の精算は25年度に改正した季節別乳価実施要領の調整率92～114%の季節別乳価によって精算を実施しました。

当月に販売したプール対象生乳代金に調整率を乗じて得た当月の季節別乳代金を受託乳量で除して単価を求め、求めた単価を会員ごとの受託乳量を乗じて得た金額を精算しました。月毎の調整により発生した調整残額と借越しの金利負担額は６～11月の受託乳量実績で精算し、３月分生乳代金と同時に送金しました。(表４)

表４．生乳代金の精算　(単位：千円、調整率のみ%)

月	プール生乳代	調整率	精算生乳代	調整額	調整額累計
4	5,638,980	94	5,300,633	338,347	338,347
5	5,986,308	94	5,627,079	359,230	697,577
6	5,648,679	100	5,648,668	11	697,588
7	5,454,671	110	6,000,105	△545,435	152,153
8	5,189,613	111	5,760,424	△570,811	△418,658
9	5,277,275	114	6,016,065	△738,790	△1,157,448
10	5,344,340	105	5,611,550	△267,210	△1,424,658
11	5,240,084	100	5,240,039	45	△1,424,613
12	5,279,058	93	4,909,497	369,561	△1,055,053
1	5,491,201	92	5,051,891	439,310	△615,743
2	5,180,658	92	4,766,177	414,481	△201,261
3	5,677,878	92	5,223,646	454,231	252,970
計	65,408,744		65,155,774	252,970	

注)千円単位での四捨五入のため計が一致しない場合がある

５．加工原料乳生産者補給金

28年度の加工原料乳交付対象数量は全国で脱脂粉乳･バター等向け生乳178万ｔ(前年±０ｔ)、チーズ向け生乳52万ｔ（前年±０ｔ）となり、九州の交付対象数量は最終配分を受け脱脂粉乳・バター等向け生乳73,914,000kg（前年△4,560,000kg)、チーズ向け生乳1,273,000kg(前年＋102,000kg)となりました。認定数量は、脱脂粉乳・バター等向け生乳64,217,099kg（前年△1,375,502kg)、チーズ向け生乳1,199,640kg（前年＋42,619kg)となり、限度数量内に収まりました。補給金は、脱脂粉乳･バター等向け生乳分が814,914,984円(認定数量1kg当たり12.69円　前年△0.21円）で四半期ごとに支払い（ただし第２四半期分については第４四半期と同時精算)、チーズ向け生乳分が18,330,497円（認定数量1kg当たり15.28円　前年△0.25円）で精算払しました（表５)。

表５．加工原料乳生産者補給金

項　　目	脱脂粉乳･バター等向け	チーズ向け
交付対象数量	73,914,000kg	1,273,000kg
認定数量	64,217,099kg	1,199,640kg
補給金交付数量	64,217,099kg	1,199,640kg
補給金単価	12.69円／kg	15.28円／kg
加工原料乳生産者補給金	814,914,984円	18,330,497円

受託乳量1kg当たりの単価は脱脂粉乳・バター等向け生乳が1.319円／kg（前年△0.007円)、チーズ向け生乳が0.030円／kg（前年＋0.002円）となりました。

６．酪農理解醸成及び消費拡大活動

(1)　会員実施分

事業総額　30,000千円

各会員が実施した酪農理解醸成活動、牛乳消費拡大運動への助成を行いました。また、酪農が生活者にとってより身近なものとなるよう、「ファン獲得運動」として、フェイスブックを活用し、各会員から提出された生産現場の写真を生活者へ向けて発信しました。

⑵　酪農理解醸成及び牛乳消費拡大対策事業

事業総額　28,048千円

6月の「牛乳月間」では、中央酪農会議の活動と連動して6月4日に福岡でハッピーミルクフェスタ2016を開催しました。リーフレット等のサンプリングやステージイベント、牛乳の混ぜ飲み試飲のほか、昨年度購入した模擬搾乳牛「くるみ」と模擬哺乳仔牛「クルクル」を使った擬似酪農体験の実施や、乳牛のエサ展示コーナーなど、酪農について生活者に身近に感じてもらうとともに、酪農家との交流の場とすることで酪農理解醸成と牛乳消費拡大を訴えました。

酪農家と生活者の距離を近づけ、酪農に対する安心感・親近感を生活者に持たせるため、昨年に引き続き酪農家動画の撮影・掲出を実施しました。6月に宮崎県都城市の榎木牧場の作業風景やメッセージ等の内容を本会で撮影・編集し、九州Love Milk Clubのホームページと Facebook、YouTube に掲出しています。

今年度の新たな取り組みとして、8月から9月にかけて福岡、佐賀、鹿児島の放送局主催のイベントに出展し、地元酪農家及び会員職員のご協力のもとリーフレット等の提供や「くるみ」「クルクル」を使った模似酪農体験を実施しました。

新聞を使った酪農理解醸成活動としては熊本地震が発生した際、酪農家や組織が県を超えて協力したことで地震被害を乗り越えたこと、また、被災された酪農家が前を向いて懸命に頑張っている姿を訴えるため、2月25日の朝刊に「今年の九州の牛乳は、きっと、たくましい味がしている。」をメインコピーに掲出しました。

また、昨年に引き続き2～3月にかけて「乳和食キャンペーン2017」を実施しました。

⑶　牛乳定着化事業

事業総額　14,477千円（中央酪農会議助成金）

MILK JAPANの認知率アップと「九州産」牛乳をPRし、牛乳購買の促進を図るため、11月には『秋ミルクで簡単スープ』、3月には『春ミルクで朝食スムージー』と題し、九州内の流通店舗牛乳売場にて店頭販促を実施しました。『秋ミルクで簡単スープ』では、マックスバリュ九州25店舗2日間、『春ミルクで朝食スムージー』ではイオン九州28店舗2日間、牛乳売場にマネキンを設置し、試飲、リーフレットの配布、POP設置を行いました。

⑷　酪農教育ファーム事業

事業総額　3,435千円（中央酪農会議助成金）

生活者の酪農への理解醸成を目的に乳牛とのふれあいや酪農体験を行う酪農教育ファーム事業を実施しました。平成29年2月には4月に発生した熊本地震復興支援として、子供たちの心の傷を癒すことを目的に全国の酪農家や熊本県酪連の協力を得て熊本市の帯山西小学校でわくわくモーモースクールを開催しました。

28年度末の認証牧場及びファシリテーターの数については表6のとおりです。

表6．認証牧場とファシリテーターの数

	認証牧場	ファシリテーター
福岡県	5	10
佐賀県	3	3
長崎県	2	2
熊本県	5	13
大分県	4	11
宮崎県	7	16
鹿児島県	5	6
計	30	61

7．生乳検査事業

⑴　生乳検査成績

乳質検査結果について、28年度の年間加重平均全固形分率は12.67%でした。脂肪分率の低下傾向が鮮明になっており、平均値で27年度に次ぐ2番目に低い値になっています。

体細胞数については、0.1万個/ml増加し21.2万個/mlとなりましたが毎年バラついている範囲であり、体細胞ペナルティ単価の改定（30万個/ml以上－3円を－2円に緩和）と関連付けられるような増加ではありません。

細菌数の加重平均は2.7万個/mlとなり、前年度より0.4万個/ml増加しました。これを前年度とのペナルティバルクの発生率で比較すると、0.10%多く発生しています。

28年度も氷点の成績向上のため問題のある生産者のサンプルを個別に実施し、改善が必要な生産者については会員へ指導を要請しました。本会が定める氷点の基準外のバルククーラーの割合については0.76%となり、毎年続いていた改善傾向が止まり増加しました。

過去5年間の乳質等の推移は表7－1のとおりです。

表7－1．乳質加重平均の推移

年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
脂肪分率	3.91%	3.90%	3.89%	3.86%	3.87%
無脂乳固形分率	8.78%	8.78%	8.79%	8.78%	8.80%
全固形分率	12.69%	12.68%	12.68%	12.64%	12.67%
体細胞数	21.1万個	21.4万個	20.5万個	21.1万個	21.2万個
細菌数	3.8万個	3.7万個	3.6万個	2.3万個	2.7万個
氷点（-0.510℃を超えるバルクの比率）	0.69%	0.63%	0.55%	0.56%	0.76%

⑵　生乳検査本数実績

検査総本数実績は生乳生産量が計画を下回る中、検査本数実績は計画比96.9%、前年比は96.7%の実績となっています。配分検査本数実績は、酪農家戸数の減少により前年比94.5%、牛改検検査実績は4月の熊本地震により一時検定を休止した酪農家の発生と初妊牛相場の高騰にみられる牛不足により96.7%となりました。依頼検査本数は前年比97.4%、取引の為の取引確認検査実績本数は90.0%となりました。

乳用牛群改良検定事業に係る検査については宮崎を除く6県について実施し、乳業者との成分取引に係る検査については福岡・佐賀・熊本・大分・鹿児島のタンクローリーについて実施、取引成分値の検証等に利用されています。

検査内容と実績本数については表7－2、検査種別・機器別の本数は表7－3のとおりです。

表7－2．検査実績本数　（単位：本）

内容	年間計画	28年実績	27年実績	計画比	前年比
配分細菌検査	37,000	35,597	37,665	96.2%	94.5%
配分成分検査	37,000	35,597	37,665	96.2%	94.5%
牛改検検査	891,000	881,303	911,583	98.9%	96.7%
依頼検査	35,000	23,975	24,624	68.5%	97.4%
取引確認検査	65,000	55,412	55,995	85.2%	99.0%
総検査本数	1,065,000	1,031,884	1,067,512	96.9%	96.7%

表7－3．検査種別・機種別検査本数　（下段は前年比）

検査種別	コンビフォス	バクトスキャン
牛群改良検定検査	881,303本	本
	96.7%	%
バルク配分検査	35,597本	35,597本
	94.5%	94.5%
個人依頼検査	21,717本	2,258本
	94.6%	135.5%
指導・取引検査	55,141本	271本
	98.5%	157.6%
合　計	993,758本	38,126本
	96.7%	96.5%

⑶　生乳検査料金

検査料金は受託乳量に対し0.12円/kgを徴収しました。

その他の検査料金は牛改検検査45円/本、依頼検査（成分・体細胞）100円/本です。

宮崎県が自県で実施した牛改検検査については1検体あたり22円を自県内牛群検定費用負担として補助しました。補助実績本数は157,738本（前年比95.3%）となっています。

員外利用の島原酪農協の生産者の希望により牛改検検査は定期的依頼検査として実施しました。同じく阿蘇農協の乳成分検査と細菌検査も定期的依頼検査として実施しました。員外利用の検査料金は乳成分検査300円/本・細菌検査600円/本です。

ペーパーディスク検査用シャーレについても、長崎県酪連と大分県酪農協に対し供給を継続しています。また、島原酪農協に対しては、員外利用単価300円/枚で提供を継続しました。

⑷　検査所組織と検査精度

生乳検査所の更なる機能の拡充と充実に努めました。生乳検査施設の精度管理認証制度について認証から6年が経過し、更新手続きを行ないました。本会は「検査部門」（乳脂肪分率・無脂乳固形分率・体細胞数）及び、「検体採取部門」について認証を受けています。年4回実施された外部精度管理の結果については全ての項目において、許容範囲内の精度を維持しています。

3月末時点での全国における認証取得状況は表7－4のとおりです。

検査機器の導入・整備について、今後の酪農情勢は酪農家の減少・搾乳牛不足により生産乳量が減少すると予想され、低コストの検査が継続できるようミルコスキャンについては最新、処理能力の高い機器に更新を行ない、バクトスキャンは平成29年2月に更新し3月から稼働しています。また、修理コストの削減と時間のロスを無くすため、機器のメンテナンスを熟知した技術職員の養成に努めています。なお、最新の検査機器の稼動により、会員へのデータ発信は格段に早い時間帯に実施可能となっています。今後も、機器の精度管理・性能保持の観点から自主点検・整備を定期的に実施していきます。

本年3月Ｊミルク主催の精度管理担当者研修会が開催され、本会から1名が参加し検査技術の向上と機器の精度維持管理に務めました。

表7－4．認証検査機関の分類　（　）は未更新の検査施設

分類・地域	北海道	東北	関東	北陸	東海	近畿	中国	四国	九州	沖縄	計
指定団体系	1	1	1	1	1	(1)	1	1	1		8
大手商系		4	9		3	6		1	3	1	27
中小商系			2			1					3
農プラ	1		1				1				3
計	2	5	13	1	4	7	2	2	4	1	41

⑸　検査技術の普及

会員CS職員等の生乳に関する基礎知識の習得、検査技術の確認と向上を図るため、検査技術研修会を平成28年7月、9月、10月の3回開催いたしました。組合等の新人職員の他、検査関連の職員、更に乳業の品質管理担当職員など22名の参加がありました。

また、集乳乗務員に対する研修会及び会員が開催

する乳質改善の講習会に講師を派遣し、正確な検体採取と乳質の劣化防止、生乳の品質向上に努めました。今後も積極的に研修会や講習会を開催します。

⑹　生乳の安全・安心の確保

平成28年度生乳の安全・安心の確保のための九州地域協議会を行政や各種指導機関、乳業者と乳業者団体、更に生乳生産に関連する業者の参集を得て開催しました。

過去、全国の残留農薬検査においてDDACの残留基準値を超える混入事故が複数回あったため、DDACとパコマの使用農家に対しては使用を中止するよう、「安全・安心の確保のための九州地域協議会」等を通じて指導しています。九州では搾乳器具に対しての使用実態は見受けられませんでしたが、今後も殺菌剤を次亜塩素酸ナトリウムに統一した指導を継続します。

記帳率100%を達成するため「出荷伝票」に記録する方式を4年前から採用し、出荷伝票に係る多くの項目において記帳が出来ていない酪農家はいなくなりました。

そのため、記入忘れは減少しており6項目全て×の農家数はゼロを達成していますが、タンクローリー生乳廃棄事故は64件364ｔと、前年を20.2ｔ上回りました。抗菌性物質の混入事故件数は、昨年より減少し26件(前年比－14件)発生しており、廃棄原因割合の41%を占めています。また、細菌異常による廃棄事故が増加し24件(前年比＋16件)発生し、原因別割合で37%を占めています。これからも乳質事故による生乳廃棄を減らせるよう、事故の際には詳細を報告してもらい原因を究明し、事故の未然防止につなげていきます。

各会員が行った重点記帳項目等の巡回検証結果は表７－５の通りです。

表７－５．重点記帳項目等の記帳状況

6項目全て○の農家	○又は×が混在する農家	6項目全て×の農家
1,284戸	236戸	0戸

全28個のチェック項目における○(「△」及び「使用していない」を含む)の比率は残念ながらわずかに悪くなり98.5%(前年比－0.2ポイント)になっています。

Ｊミルクが実施する残留農薬等検査の結果は、全てのサンプルで管理対象物質が不検出でしたが、搾乳関連場所以外ではDDACとパコマの使用実態があるため、生産者へ注意喚起を行ないました。搾乳器具の殺菌は次亜塩素酸ナトリウムに統一した指導を継続しています。

発がん性を持つカビ毒、アフラトキシンの飼料中の残留規制が12月に始まったことに続き、生乳中への残留規制も1月に始まり残留の防止についてその周知を図りました。

⑺　生乳品質共励会と表彰式の開催

平成27年度生乳品質共励会の審査を実施し、最優秀賞3名と優秀賞30名（1,119点以上)、優良賞301名（1,000点以上）を選びました。最優秀賞を獲得された、第1部熊本県の浅山二三子氏、第２部佐賀県の小川久子氏、第３部熊本県の(有)茶ノ木牧場を招き通常総会後に表彰式を行ないました。

平成28年度生乳品質共励会については1,444戸の酪農家（学校を含む）を対象に実施しました。集計の結果、最高得点は1,179点、平均得点は906点（前年度比±０点）となりました。審査委員会での審査を経た後、優秀賞の中から最優秀賞３名を決定します。

８．補助事業

本年度は以下の補助事業を行いました。

⑴　生乳生産者需要確保事業

8,284,212円

⑵　加工原料乳生産者経営安定対策事業

55,567円

⑶　生乳流通合理化促進事業

12,504,811円

９．総務部門

⑴　内部留保の充実

自己資本の強化を図る目的から、剰余金のそのほとんどを任意積立金として内部留保に充て、経営健全化のための資金として積立てを行いました。

⑵　効率的な資金管理

財務管理については、年間資金計画に基づき効率的な資金管理に努めました。生乳代金の債権管理については、販売部と連携し遅延先との協議を図りながらその減額に努め、財務の健全化に取り組み1社につきましては債権の完済となりました。

⑶　コンプライアンス態勢の推進

コンプライアンス態勢や規程及び要領の理解に努めるため、コンプライアンス研修会を通じて職員への法令等の遵守、個人情報の保護等周知徹底に努めました。

⑷　情報の提供

年４回定期的に「九州生乳販連会報」を発行し、会員、酪農家および関係団体へ生乳生産状況や販売状況、酪農を取り巻く環境の動向、酪農理解醸成や消費拡大事業などタイムリーな情報の提供を行いました。

貸　借　対　照　表

第18年度（平成29年3月31日現在）

（単位：千円）

科目	金額	科目	金額
（資産の部）		（負債の部）	
流動資産	**7,554,276**	**流動負債**	**7,181,225**
1．預金	526,748	1．短期借入金	70,000
2．事業未収金	7,090,578	2．事業未払金	6,758,719
3．雑資産	8,951	3．リース負債	13,527
4．貸倒引当金	△ 72,000	4．雑負債	338,978
固定資産	**190,518**	**固定負債**	**103,418**
1．有形固定資産	91,587	**負債の部合計**	**7,284,644**
2．無形固定資産	146	**出資金**	**70,000**
3．外部出資その他の資産	98,785	**利益準備金**	**140,000**
		特別積立金	**10,000**
		目的積立金	**198,000**
		繰越利益剰余金	**42,151**
		純資産の部合計	**460,151**
資産の部合計	**7,744,794**	**負債・純資産の部合計**	**7,744,794**

損　益　計　算　書

第18年度（平成28年4月1日より平成29年3月31日まで）

（単位：千円）

科目	金額	
1　事業総利益		**249,636**
⑴販売事業収益	70,822,015	
⑵販売事業費用	70,686,030	
販売事業総利益		**135,985**
⑶とも補償事業収入	60,960	
⑷とも補償事業費用	60,960	
とも補償事業総利益		**0**
⑸消費拡大事業収入	16,575	
⑹消費拡大事業費用	15,538	
消費拡大事業総利益		**1,037**
⑺検査事業収益	119,661	
⑻検査事業費用	19,319	
検査事業総利益		**100,342**
⑼事業補助金	20,845	
⑽補助事業費	8,572	
補助事業総利益		**12,272**
2　事業管理費		**200,091**
事業利益		49,545
3　事業外収益		**14,279**
4　事業外費用		**3,827**
経常利益		59,997
5　特別利益		**0**
6　特別損失		**12,333**
税引前当期純利益		**47,664**
法人税等合計		**10,787**
当期純利益		**36,877**
繰越利益剰余金期末残高		**42,151**

生乳品質共励会表彰式

7月24日平成28年度生乳品質共励会の表彰式を第18回通常総会終了後、ホテルセントラーザ博多にて開催しました。

本会の生乳品質共励会開催要領に基づき、昨年4月から3月までの1年間を対象に、月2回実施した乳質検査の結果を配点基準により採点し24回の合計点数を1,200点満点で評価したものです。

それぞれの審査項目と基準値は、脂肪分率3.8%以上・無脂乳固形分率8.7%以上・細菌数3万以下・体細胞数10万以下・氷点－0.520度以下という、厳しいものになっています。

昨年は4月の熊本地震から始まり、梅雨時期の豪雨被害、9月まで続いた夏季の猛暑と自然災害に翻弄されましたが、対象となる1,444バルクの平均点は前年と同じ906点となりました。

乳量階層別に3部門（第1部：250㌧未満、第2部250㌧以上500㌧未満：第3部500㌧以上）最優秀賞の方を表彰式に招いてその栄誉を称え、九州生乳販連会長賞が授与されました。

第1部の山口直敏氏（長崎県）には九州農政局長賞と全国農業協同組合連合会会長賞が、第2部の内田洋氏（熊本県）には（一社）中央酪農会議会長賞と全国酪農業協同組合連合会会長賞が、第3部の池田卓彌氏（長崎県）には（一社）日本乳業協会会長賞と（一社）Jミルク会長賞がそれぞれ贈られました。

また、今回は過去3年間（26年～28年）に優秀賞を連続して獲得された方も表彰式に招いてその栄誉を称え、3年連続優秀賞受賞記念のステンレスプレートが贈られました。さらに、1,115点以上の優秀賞受賞者31名には、優秀賞受賞記念のステンレスプレートが、1,000点以上を獲得された287名の優良賞受賞者には「2017　優良生乳生産管理牧場」のステッカーがそれぞれ贈られました。今回優秀賞と連続優秀賞を獲得された方々は、下記のとおりです。

優秀賞受賞者名簿及び得点

【規模別ランク区分】　1：250㌧未満　2：250㌧～500㌧未満　3：500㌧以上

番号	県	氏　名	得　点	規模別ランク	表　彰
1	長崎県	山口　直敏	1,179	1	1部最優秀賞
2	熊本県	内田　　洋	1,154	2	2部最優秀賞
3	長崎県	池田　卓彌	1,156	3	3部最優秀賞
4	佐賀県	小川　広海	1,159	1	優秀賞1
5	長崎県	三宅新太郎	1,155	1	優秀賞2
6	鹿児島	櫛下町優三	1,154	1	優秀賞3
7	熊本県	有）茶ノ木	1,153	3	優秀賞4
8	熊本県	東　　恵	1,148	1	優秀賞5
9	宮崎県	黒木　英教	1,147	2	優秀賞6
10	熊本県	中村　一穂	1,145	3	優秀賞7
11	福岡県	川島　正春	1,144	1	優秀賞8
12	熊本県	鈴木　浩章	1,144	1	優秀賞8
13	熊本県	丸山　孝司	1,142	2	優秀賞10
14	鹿児島	牧瀬　勝利	1,141	3	優秀賞11
15	宮崎県	野口　正美	1,139	1	優秀賞12
16	福岡県	水上　治彦	1,138	2	優秀賞13
17	熊本県	坂井　保夫	1,135	1	優秀賞14
18	大分県	竹村富二男	1,134	2	優秀賞15
19	熊本県	有）真鍋	1,133	2	優秀賞16
20	福岡県	江上　正生	1,132	3	優秀賞17
21	長崎県	井上　紀一	1,132	1	優秀賞17
22	熊本県	村岡　泰司	1,130	1	優秀賞19
23	長崎県	松谷　　茂	1,127	2	優秀賞20
24	鹿児島	株）拓牧	1,123	3	優秀賞21
25	福岡県	平井　正広	1,122	1	優秀賞22
26	熊本県	桐原　文久	1,122	2	優秀賞22
27	熊本県	開　倫太郎	1,122	2	優秀賞22
28	鹿児島	農）霧島第一牧場	1,122	3	優秀賞22
29	宮崎県	財部　　猛	1,120	2	優秀賞26
30	長崎県	大久保　英	1,118	2	優秀賞27
31	熊本県	坂本　篤幸	1,116	1	優秀賞28
32	熊本県	古閑　隆一	1,116	1	優秀賞28
33	福岡県	松永　安博	1,115	3	優秀賞30
34	佐賀県	出　　和実	1,115	2	優秀賞30

連続優秀賞受賞者名簿

番号	県	氏　名	平成26年度	平成27年度	平成28年度
1	長崎県	池田　卓彌	優秀賞11	優秀賞2	最優秀賞
2	長崎県	三宅新太郎	最優秀賞	優秀賞3	優秀賞2
3	熊本県	村岡　泰司	優秀賞18	優秀賞9	優秀賞19
4	熊本県	東　　恵	優秀賞17	優秀賞14	優秀賞5
5	熊本県	内田　　洋	優秀賞25	優秀賞18	最優秀賞
6	熊本県	有）茶ノ木	優秀賞15	最優秀賞	優秀賞4
7	宮崎県	黒木　英教	優秀賞16	優秀賞1	優秀賞6
8	宮崎県	野口　正美	最優秀賞	優秀賞20	優秀賞12
9	鹿児島	牧瀬　勝利	優秀賞8	優秀賞11	優秀賞11

酪　農　情　勢　報　告

1．生乳生産

⑴九州の生乳出荷戸数

平成29年6月の生乳出荷戸数は、1,444戸でした。平成29年3月時点の1,457戸だったところから比較すると、今年度に入り13戸減少しています。

⑵九州の乳用種雌牛飼養頭数と出生頭数

平成28年度は総飼養頭数が前年を3%程度下回って推移してきました。平成29年度は、前年と同様の傾向で推移していますが、6月の前年比はやや回復傾向にあります（表1）。

表１　乳用種雌牛飼養頭数　（単位：頭）

		4月	5月	6月
23カ月令以下	29年	28,130	28,117	28,415
	増減	-864	-893	-666
	前年比	97.0%	96.9%	97.7%
24カ月令以上	29年	81,024	80,597	80,281
	増減	-2,444	-2,169	-1,682
	前年比	97.1%	97.4%	97.9%
総頭数	29年	109,154	108,714	108,696
	増減	-3,308	-3,062	-2,348
	前年比	97.1%	97.3%	97.9%

注：Jミルクホームページより

出生総頭数については、その半数近くを占める交雑種の減少に引きずられる形で大きく減少し、平成29年3月～5月の期間においては前年を10%～20%近く下回りました。

表２　出生頭数　（単位：頭）

		3月	4月	5月
総頭数	29年	3,347	2,565	2,288
	増減	-297	-555	-349
	前年比	91.8%	82.2%	86.8%
うち、乳用種雌	29年	699	490	439
	増減	-12	-58	-16
	前年比	98.3%	89.4%	96.5%
うち、乳用種雄	29年	605	449	359
	増減	-125	-65	-51
	前年比	82.9%	87.4%	87.6%
うち、交雑種	29年	1,640	1,286	1,116
	増減	-162	-447	-319
	前年比	91.0%	74.2%	77.8%

注：Jミルクホームページより

⑶生乳生産量

九州の生乳受託乳量について、平成29年4月～6月の期間累計では前年比98.5%となり（表3）、平成28年度の実績が96.8%だったことからすると高めの実績です。前年の同期間は熊本地震の影響を受けて生乳生産量が落ち込んでいたことの反動によるものだと考えられます。

また、昨年台風の影響を受けて落ち込みが続いていた北海道でも、今年に入っても傾向は変わらず、全国でも前年を2%程下回って推移しています。

表３　生乳受託乳量　（単位：t、%）

		4月	5月	6月	期間累計
九　州		53,675	54,719	50,913	159,307
	前年比	98.9	98.1	98.5	98.5
都府県		279,744	288,614	270,698	839,055
	前年比	97.8	98.4	98.9	98.4
北海道		312,818	330,046	319,415	962,278
	前年比	97.8	98.1	97.2	97.7
全　国		592,561	618,659	590,112	1,801,333
	前年比	97.8	98.3	98.0	98.0

注：中央酪農会議　用途別販売実績（速報）より
注：今年度から東海と九州の公共の数値を除いています。

2．生乳需給

全国的に生乳生産量が前年を下回っている状況ですが、飲用向けについては堅調です。九州でも同様の傾向が見られ、乳製品向けについては、昨年地震の影響で実績が高くなっていた反動もあり4、5月は1割以上前年を下回っています。

表４　用途別販売数量前年比　（単位：t、%）

		4月	5月	6月	期間累計
九州	飲用	34,538	38,939	38,040	111,516
	はっ酵乳	7,550	8,021	8,079	23,651
	乳製品	8,749	4,927	2,183	15,858
	（前年比）	(86.6)	(88.1)	(94.0)	(88.0)
	生クリーム	2,739	2,733	2,517	7,989
	チーズ	100	98	95	293
	（前年比）	(106.7)	(96.0)	(94.3)	(98.8)
全国	飲用	264,743	283,893	285,334	833,966
	はっ酵乳	40,638	43,010	41,531	125,179
	乳製品	139,602	146,909	119,007	405,517
	（前年比）	(89.8)	(96.6)	(93.2)	(93.2)
	生クリーム	112,504	110,019	109,064	331,591
	チーズ	35,074	34,827	35,176	105,077
	（前年比）	(99.5)	(94.3)	(95.9)	(96.5)

注：中央酪農会議　用途別販売実績（速報）より
注：今年度から東海と九州の公共の数値を除いています。

＊平成29年度から補給金制度の交付対象が変更になったことに伴い用途変更が行われたため、中央酪農会議が公表する用途別販売実績についても前年比の公表は特定乳製品向けとチーズ向けのみとなります。

3．今後について

平成29年度に入り、全国的に生乳生産量が前年を下回って推移しています。特に都府県では、歯止めのかからない離農や道産初任牛相場の暴騰による乳牛不足を背景に、生産回復の兆しが見られない状況です。

一方の生乳販売においては、飲用需要が堅調であるため、生乳生産量の早期回復が望まれるところです。

今後は、飲用需要が一段と増す夏場を迎えるため、さらに厳しい需給状況になることが想定されます。各地域において、畜産・酪農収益力強化整備事業（畜産クラスター事業）やJミルクの酪農生産基盤強化事業などの活用、飼養管理の見直しなどにより、生乳生産基盤の維持・拡充に向けた取組みが求められます。

平成29年度会員別生乳受託乳量

（単位：t ,%）

	ふくおか県酪協			佐賀県農協			長崎県酪連			熊本県酪連		
	実　績	H28比	H27比	実　績	H28比	H27比	実　績	H28比	H27比	実　績	H28比	H27比
4　月	6,734	96.9	92.3	1,279	91.9	87.5	3,617	99.2	94.3	21,561	102.2	99.0
5　月	6,815	97.5	92.7	1,299	93.2	86.8	3,685	100.1	95.9	22,079	100.3	99.4
6　月	6,369	97.5	93.2	1,178	90.2	84.1	3,343	97.7	93.4	20,700	101.0	99.6
合　計	19,919	97.3	92.8	3,756	91.8	86.2	10,645	99.1	94.5	64,340	101.1	99.3

	大分県酪協			宮崎県経済連			鹿児島県酪協			合　　計		
	実　績	H28比	H27比	実　績	H28比	H27比	実　績	H28比	H27比	実　績	H28比	H27比
4　月	6,192	97.1	92.2	7,043	97.0	93.4	7,650	96.0	91.6	54,076	98.9	94.9
5　月	6,221	95.9	91.6	7,177	96.1	93.9	7,850	96.3	92.4	55,126	98.1	95.3
6　月	5,803	96.6	91.0	6,664	96.7	94.2	7,226	97.7	93.4	51,283	98.5	95.4
合　計	18,215	96.5	91.6	20,884	96.6	93.9	22,726	96.6	92.5	160,485	98.5	95.2

平成29年度販売状況について

用途別生乳販売実績

（単位　数量：t、前年比：%）

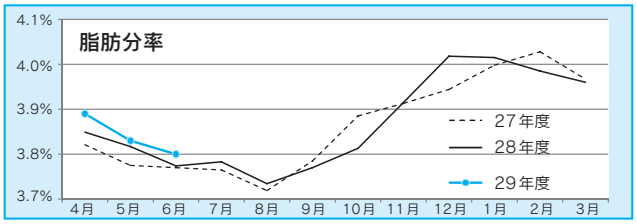
用　途	4月		5月		6月		第1四半期計	
	数　量	前年比	数　量	前年比	数　量	前年比	数　量	前年比
域内飲用向	21,211	101.4	23,532	100.5	23,740	100.9	68,484	100.9
学校給食向	2,797	106.0	4,008	106.2	4,590	99.4	11,395	103.3
域外飲用向	10,832	92.4	11,713	90.7	10,040	89.2	32,584	90.8
飲　用　向　計	34,839	98.7	39,253	97.9	38,370	97.4	112,462	98.0
はっ酵乳等向	7,550	118.5	8,021	111.8	8,079	112.0	23,651	113.9
加工原料乳向	8,829	86.6	4,998	88.3	2,202	93.9	16,029	88.1
生クリーム等向	2,758	100.4	2,755	87.5	2,538	84.7	8,050	90.6
チーズ原料向	100	106.8	98	96.0	95	94.3	293	98.8
販売乳量合計	54,076	98.9	55,126	98.1	51,283	98.5	160,485	98.5

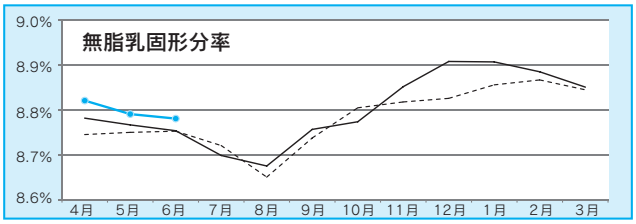
支払乳代

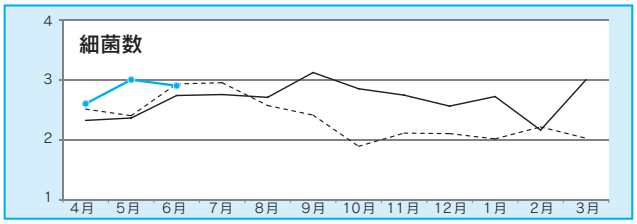
（単位　金額：千円、単価：円）

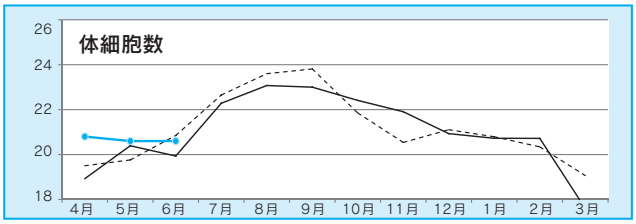
項　目	4月		5月		6月		第1四半期計	
	金　額	単価	金　額	単価	金　額	単価	金　額	単価
生乳販売金額①	5,596,249	103.489	5,882,822	106.716	5,571,819	108.648	17,050,891	106.246
脂肪加算金	42,589	0.788	36,191	0.657	31,797	0.620	110,576	0.689
無脂固形加算金	51,687	0.956	50,713	0.920	47,346	0.923	149,747	0.933
成分加算金計	94,276	1.743	86,904	1.576	79,143	1.543	260,323	1.622
季節別調整率②	94%		94%		100%			
季節別調整額	-335,775	-6.210	-352,969	-6.403	0	0.000	-688,744	-4.292
調整後乳代③=①×②	5,260,474	97.279	5,529,853	100.313	5,571,819	108.648	16,362,146	101.954
プール費用④	273,807	5.064	290,475	5.270	274,300	5.349	838,582	5.226
差引乳価③－④	4,986,667	92.215	5,239,378	95.043	5,297,519	103.298	15,523,564	96.728

月別受託生乳検査成績



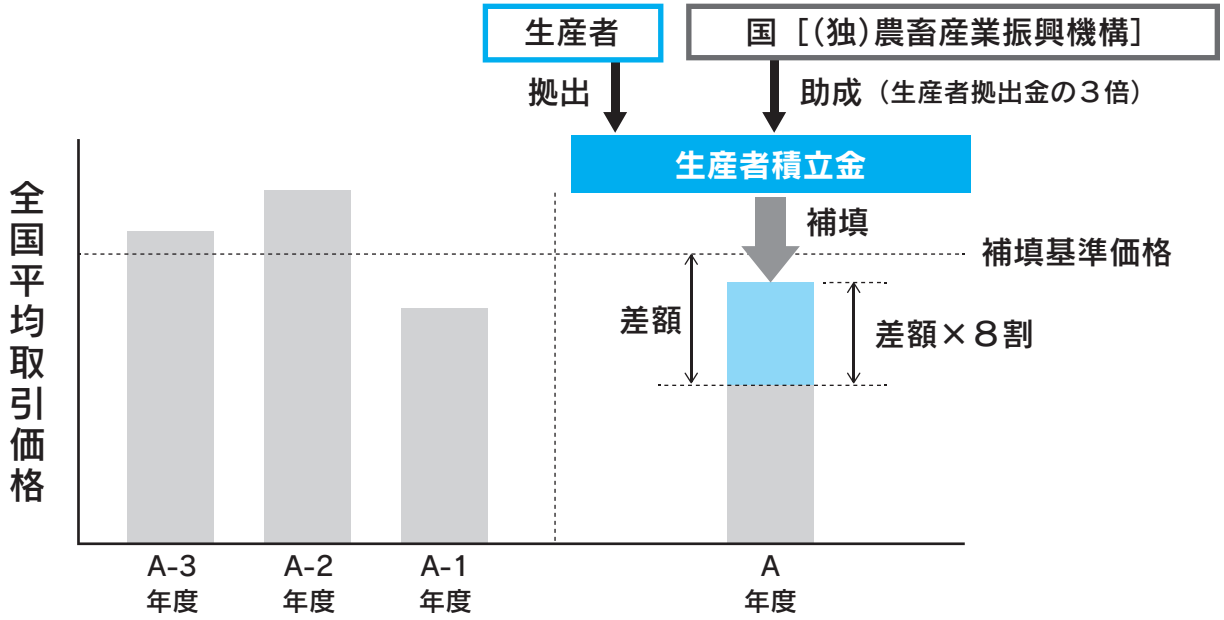






加工原料乳生産者経営安定対策事業に関するお知らせ

当事業は、生産者と国（ALIC）それぞれ１：３の割合で拠出して基金を造成することで、加工原料乳の価格低落に備えることを目的としています。加工原料乳生産者補給金制度の補完的な事業として措置されており、その対象は補給金制度と同様に加工原料乳（脱脂粉乳・バター向け、チーズ向け、生クリーム向け）です。



平成29年度実施のポイント

1. 生産者拠出金単価は、加工原料乳１kgあたり0.20円です。
2. 補給金制度の改正に合わせて要綱が変更になっているため、新たに契約を結びなおす必要があります。実施時期については、新しい契約書の発送と合わせてのご案内となります。
3. 平均取引価格、補填基準価格等については、国（ALIC）からの報告をもって別途ご案内します。

事業の円滑な推進に努めてまいりますのでご協力よろしくお願い致します。

九州北部豪雨（激甚災害指定）について

７月５日夕方より、福岡県朝倉市・東峰村、大分県日田市を中心に気象観測史上で最大級の集中豪雨に見舞われ、山沿いを中心に土砂崩れによる道路の通行止めや河川の氾濫・停電などが相次ぎました。

福岡県朝倉市では、牛舎浸水７戸、バルク故障１戸、家の裏山で土石流発生１戸、久留米市で道路浸水１戸等が発生しました。

大分県日田市でも、牛舎浸水・停電による生乳廃棄２戸、土砂崩れで集乳不可が４戸、耶馬渓で牛舎浸水１戸が発生し、特に土砂崩れによる集乳不可４戸のうち１戸は道路の復旧作業が長期化し、孤立状態が続きました。

また、熊本県においても、阿蘇地区で落雷によるバルク故障が発生し冷却不可となり、１ｔの生乳廃棄が発生しました。そのような中、朝倉市においては、土石流発生の１戸について７月８日に牛を牛舎から出し、別の農家の牛舎へ移動しました（搾乳頭数22頭）。

なお、日田市において土砂崩れによる孤立状態であった１戸は、７月28日午後より集乳が可能となりました。

生乳廃棄量（７／５～７／２７まで）

●福岡県…20.95ｔ　●大分県…32.00ｔ　●熊本県…1.00ｔ

平成29年度生乳計画生産目標数量の配分について

（一社）中央酪農会議は、各指定団体からの受託販売計画等を踏まえ、販売基準数量、特別調整乳数量、選択的拡大生産数量および新規就農枠を表１のとおり配分し、全国の生乳計画生産目標数量は7,155,235トン（前年比101.4%）となりました。

また、本会は、中酪から配分を受けた販売基準数量と選択的拡大生産数量を合計した数量を本会の販売基準数量として平成28年度会員別生乳計画生産実績数量に応じて按分し、災害保留数量、新規就農枠数量については申請のあった会員に中酪から配分を受けた数量を販売基準数量として配分しました。その上で、生産者から積み上げた生乳出荷計画数量が販売基準数量を超過した会員には、九州内で販売基準数量の調整を行い、それでもなお超過した数量を特別調整乳数量として配分しました。これらの結果、平成29年度生乳計画生産目標数量は629,809トン（前年比102.0%）となり、会員別配分数量は表２のとおりとなりました。

表１．平成29年度生乳計画生産目標数量の指定団体別配分数量

（単位：t）

指定団体	計画生産目標数量 A=B+E	前年比	供給目標数量 B=C+D	販売基準数量 C	うち新規就農枠	特別調整乳数量 D	選択的拡大生産数量 E
北海道	3,866,670	102.0%	3,463,246	3,377,765	6,738	85,481	403,424
東北	540,716	100.6%	538,002	538,002	0	0	2,714
関東	1,110,292	100.8%	1,109,581	1,103,118	0	6,463	711
北陸	84,649	100.2%	84,569	84,569	0	0	80
東海	367,946	100.2%	366,346	366,346	0	0	1,600
近畿	161,868	100.2%	161,844	161,844	0	0	24
中国	275,402	100.2%	275,002	275,002	0	0	400
四国	117,882	101.0%	117,822	116,878	0	944	60
九州	629,809	102.0%	628,369	620,021	929	8,348	1,440
都府県	3,288,565	100.8%	3,281,536	3,265,780	929	15,756	7,029
全国	7,155,235	101.4%	6,744,781	6,643,545	7,667	101,236	410,453

表２．平成29年度生乳計画生産目標数量の会員別配分数量

（単位：kg）

	平成28年度生乳計画生産実績数量 A	前年比 A/H27	平成29年度生乳計画生産目標数量（一次） B：C＋D	前年比 B/A	うち、販売基準数量 C	うち、新規就農枠数量	うち、特別調整乳数量 D
ふくおか県酪協	77,990,702	95.84%	78,004,866	100.02%	78,004,866	0	0
佐賀県農協	15,506,719	93.92%	15,531,857	100.16%	15,531,857	0	0
長崎県酪連	40,775,228	95.18%	40,519,372	99.37%	40,519,372	0	0
熊本県酪連	244,085,222	98.30%	254,150,667	104.12%	247,088,048	570,000	7,062,619
大分県酪協	71,254,925	95.81%	71,799,515	100.76%	71,799,515	359,000	0
宮崎県経済連	81,308,792	97.20%	81,440,600	100.16%	81,440,600	0	0
鹿児島県酪協	86,840,915	95.17%	88,362,560	101.75%	87,076,742	0	1,285,818
合計	617,762,503	96.78%	629,809,437	101.95%	621,461,000	929,000	8,348,437

人事異動　平成29年8月1日付　検査部　縄田由起子（新規採用）

酪農理解醸成・
牛乳消費拡大対策事業

お知らせとご報告について

ハッピーミルクフェスタ2017開催！
ご協力ありがとうございました。

九州の牛乳の魅力を伝えるとともに、酪農家と消費者との交流の場を作ることを目的に「ハッピーミルクフェスタ2017」を開催しました。今年は、福岡にて会員役職員及び生産者のご協力のもと実施しました。

イベント当日は天候に恵まれたこともあり多くの方が来場しました。用意していたサンプリングバック7,000部及びMILK JAPANクイズコーナーの景品700個は全て配布・贈呈することができ、九州の酪農と牛乳の魅力を多くの来場者にアピールすることができました。サンプリングに同封したミルメークも好評で、来場した方から「今夜牛乳買って帰ろう」「子供の頃飲んで以来なので楽しみ」などのお声をいただきました。

９年目の今年は、ステージイベントとして牛乳ヒゲコンテスト・子ども向けキャラクターショー・牛乳マジックショーを実施し、多くの参加者と観客で賑わいました。また、フロアイベントでは例年通り、模擬搾乳コーナー・無料試飲コーナー実施のほか、Ｊミルクのロゴデザイン（WORLD MILK DAY 6.1）を使用した顔はめパネルコーナーを設けました。特に無料試飲コーナーでは、牛乳・カルピス牛乳・カルピススムージー３種類で展開し、多くの来場者に九州の牛乳のおいしさを味わってもらえたと思います。

実施日	会場	配布物	実施内容
H29 6/3（土）	福岡市中央区 ライオン広場	リーフレット 7,000 部、 風船 600 個	サンプリング、模擬搾乳コーナー、無料試飲コーナー、MILK JAPAN クイズコーナー、牛乳パック・酪農家の一日パネルの展示、着ぐるみ回遊、顔はめパネルコーナー、牛乳ヒゲコンテスト、九州 Love Milk ＰＲタイム、牛乳マジックショー、子ども向けキャラクターショー

放送局イベントに出展します！

九州Love Milk Clubでは9～10月下旬にかけて、福岡・熊本・鹿児島県の各テレビ局及びラジオ局主催のイベントに出展を予定しています。各会場には模擬搾乳『くるみ』と模擬哺乳牛『クルクル』が登場します。酪農体験に参加してくれた方にはリーフレットの提供など、酪農や牛乳について楽しく知ってもらい、酪農理解醸成に繋げます。お近くの方はぜひ遊びに来てください！

日時	主催	イベント名	会場
平成 29 年 10/14（土）～ 10/15 日（日）	九州旅客鉄道㈱ ㈱ JR 博多シティ ㈱ぐるなび	博多 FARMERS’ MARKET	JR 博多駅前広場
平成 29 年 10/28（土）～ 10/29 日（日）	熊本県民テレビ	夢まちランド	熊本市中心市街地
平成 29 年 9/23（土）～ 9/24（日）	鹿児島テレビ	KTS の日 2017	鹿児島県民 交流センター

乳和食キャンペーンを実施します！

和食の調理に牛乳を上手に取り入れ、和食の欠点である「塩分過剰」や「カルシウム不足」を補う新しい和食「乳和食」をより多くの消費者に広めるため、今年も乳和食キャンペーンを実施します。４年目となる今年は、九州各県のイベントや繁華街へ乳和食を提供するキッチンカーを派遣して多くの方に無料で試食してもらう企画になっています（現時点で予定している会場は福岡・熊本・鹿児島県の放送局イベントです）。12,000食の提供を目標に活動していきます。実施期間は９月下旬～11月下旬を予定しています。

さらに、前回に引き続き西部ガスクッキングクラブと提携し、料理家であり管理栄養士の小山浩子先生を講師とした乳和食料理教室を開催します。乳和食の作り方を実際に見て、作ってもらうことでよりわかりやすく伝え、家庭での乳和食の普及を進めるとともに牛乳の消費拡大に繋げます。

実施期間	内　　容
9 月下旬～ 11 月下旬（予定）	・九州各県へキッチンカーの派遣、無料での試食 ・乳和食料理教室（西部ガスクッキングクラブと提携）

ファン獲得運動や酪農家紹介ムービー、牛乳料理やイベント情報はこちらをチェック！まずは検索してみてくださいね！

ホームページは ミルとミク で検索　URL：www.mirutomiku.jp
フェイスブックは 九州生乳販連 または @kyuhanren で検索
URL：https://www.facebook.com/kyuhanren

平成29年度酪農教育ファーム

認証牧場・ファシリテーターを募集します!

酪農教育ファームとは、全国の酪農家および関係者が牧場や学校などで、主に教育関係者と協力しながら行う酪農理解醸成活動です。平成29年度現在九州では、55名のファシリテーターの方と30ヶ所の認証牧場があり地域の子どもたちや先生方に酪農を体験していただいたり、酪農の素晴らしさを伝える活動をしています。

活動内容

酪農教育ファームの活動は、牧場に地域の子どもたちや先生方を受け入れて酪農体験を行う受入型酪農体験や、近隣の小学校などを訪れ酪農のお話をしたり、模擬搾乳牛や本物の牛を学校へ連れていき乳搾り体験を行う訪問型酪農体験学習を実施しています。

また、昨年発生しました熊本地震に係る熊本地震復興支援事業を実施しており、熊本市内の小学校を訪れ酪農の力で子どもたちの心の傷を癒すための酪農体験等を今年度も計画しています。

応募方法

認証牧場、ファシリテーターともに申請書を各県酪農協に請求し、申請書に必要事項記入のうえ各県酪農協へ提出をお願いします。

申込締切

平成29年10月31日(火)

＊お問い合わせ＊

九州生乳販売農業協同組合連合会　総務部　長尾　卓弥

TEL 092-432-6021　　FAX 092-432-6022